

# まちと共に在る 伝統の祭礼

5台の豪華な山車、にぎやかな囃子、響く浄瑠璃の節。地域の人々によって長きにわたり受け継がれ、まちと共に発展してきた、知立まつり。祭りのにぎわいが、知立に初夏の訪れを告げます。

## 江戸時代から続く伝統行事 まちの繁栄と共に発展

知立神社の祭礼である知立まつりは、本祭と間祭が1年おきに開かれます。毎年5月2日・3日の二日間で開催し、今年は本祭。5つの地区から高さ7メートル重さ5トンの山車が繰り出し、囃子に合わせてまちを巡行。山車で上演される、山車文楽とからくり人形芝居を目にしようと、毎年約5万人が訪れます。

「祭りが始まった時期は、はっきりと分かっていません。しかし、承応2



山車の舞台上、主遣い、左遣い、足遣いの3人が息を合わせて1体の人形を操る



何十本もの糸で繊りなす繊細な動きがからくりの見どころ



知立神社前の坂で、梶棒を持ち上げ重さ5トンの山車を支える梶棒連

(1653)年から山車の奉納が開始したと文献に残っています」と話すのは、知立神社の神山忠憲権禰宣。戦国時代、神社は戦火で焼け落ち、江戸時代に復興。それを機に東海道の宿場町として地域は栄え、経済的に豊かになった人々が協力して山車の奉納を始めたようです。また当時、流行の先端であった関西地方の文化を取り入れ、奉納時に浄瑠璃を上演。かつては山車の上の段でからくり、下の段で文楽を披露していたと伝わります。

現在は西町の山車がからくり、山

町、中新町、本町、宝町の山車が文楽を上演。まちの歴史や発展と共に形を変え、郷土芸能として受け継がれてきました。

## 地域が熱気に包まれる二日間 知立独自の祭りを伝承

ユネスコ無形文化遺産と国指定重要無形民俗文化財に登録・指定されている山車文楽とからくりは、祭りの見どころ。3人が一体の人形を浄瑠璃に合わせて操る文楽は、山車正面の引き出し舞台で演じます。知立山車連合保存会の加藤徹三会長は「山車の舞台で浄瑠璃を演じるのは、全国でも知立まつりだけ。狭い舞台で物語を展開するので、人形の動きや演出に工夫が必要です」と熱を込めます。まるで人間の体のような動きを再現するには、3人の呼吸を合わせなければなりません。人形の手足だけでなく、首の傾げ方、着物の揺らめきといった細かな動きも研究し、稽古を重ねます。現在は4つの地区が三

番叟「傾城阿波の鳴門」「壺坂観音 霊験記」「神霊矢口の渡し」を上演しています。

一方、からくりは何十本もの糸で人形を操ります。糸からくりという仕組みで、人形が浄瑠璃に合わせて、物語を演じることは全国でも珍しいものです。現在は、西町の山車が「二の谷合戦」「平治合戦」を演じています。知立山車連合保存会の鶴田常智理事は「人形を作るのも、演じるのも、まちの人。昔から使われてきた



(上)語り手に留まらず、人形の制作も手掛ける本多理事。書籍を参考に独学で技術を身に付けたという(右)人形の中に糸を巡らせ、表情の動きを再現する仕掛け



大人から子どもまで幅広い年代が参加。年長者から年少者に代々受け継がれる

## 後世に祭りをつなぐため 後継者育成に注力する人々

山車を地域住民の手で修復しながら大切に使っているんです」と目を細めます。

知立まつりの特色となった、山車文楽とからくり。祭りを仕切る惣代、囃子を務める囃子連、浄瑠璃を演じる人形連、山車を担ぎ上げ曳き回す梶棒連などが支えています。囃子連は、家族や友人の誘いをきっかけに多くの子どもが参加。幼い頃から関わり、愛着をもち、成長しても祭りの時期に合わせて帰省したり、囃子連卒業後に梶棒連として参加を希望したりする人もいます。

しかし、浄瑠璃の語り手や三味線弾きは、長い時間をかけて技術を習得する難易度の高い役割。後継者の育成が課題です。語り手を担う知立山車連合保存会の本多純一理事は「これまで何十年も練習してきた、数えきれないほどの公演に臨んできましたが、満足いく演じ方は一度もありません」と難しさを話します。現在、本多理事は自身の稽古の傍ら、毎週、語り手育成の講習会「義太夫会」を開いたり、知立市立竜北中学校の文楽クラブに浄瑠璃の指導をしたりと次世代育成に注力しています。

今年の知立まつりはユネスコ無形文化遺産への登録後、初の本祭。これまで以上ににぎわいと、各地からの注目が予想されています。今後、祭りは知立の人々により支えられ、地域の伝統行事として受け継がれていくでしょう。

### information

平成30年 知立まつり (本祭り)  
5月2日[水]『試楽』 5月3日[木・祝]『本楽』

<http://www.chiryu-kanko.com/detail/view/22>

※各町内の車庫より山車が出発  
※出発時間/山車文楽・からくりの上演時間はウェブサイトを確認



知立山車連合保存会 加藤徹三 会長  
知立山車連合保存会 鶴田常智 理事  
知立神社 神山忠憲 権禰宣

知立神社の境内に揃った山車5台が並ぶ様は壮観

